

財政状況の公表（平成28年度上半期）概要

各計数は、原則として表示単位未満四捨五入のため、合計等に一致しないことがあります。

平成28年度予算のあらまし

補正額 7億5,685万円

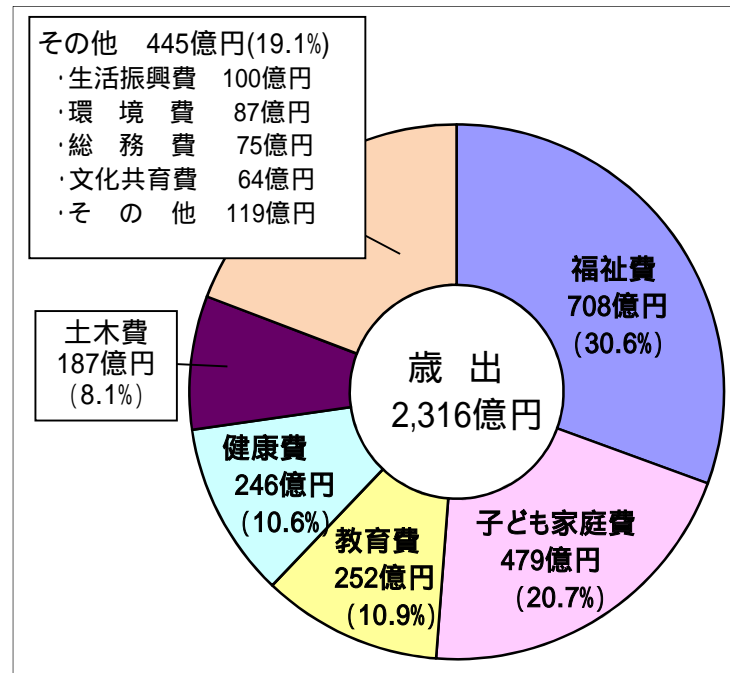
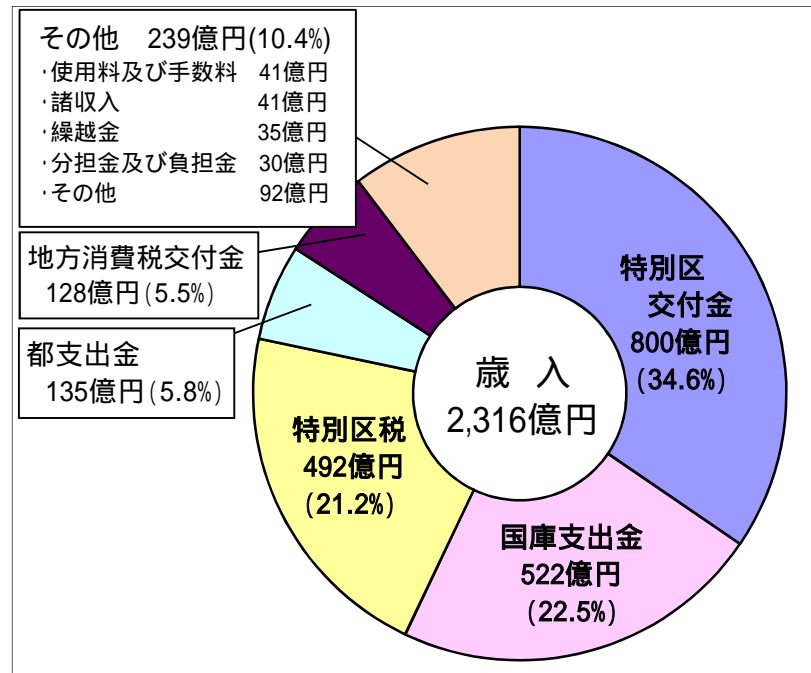
<歳入>

繰越金	4億7,109万円
国庫支出金	2億703万円
都支出金	4,149万3千円
使用料及び手数料	2,534万8千円
繰入金	450万円

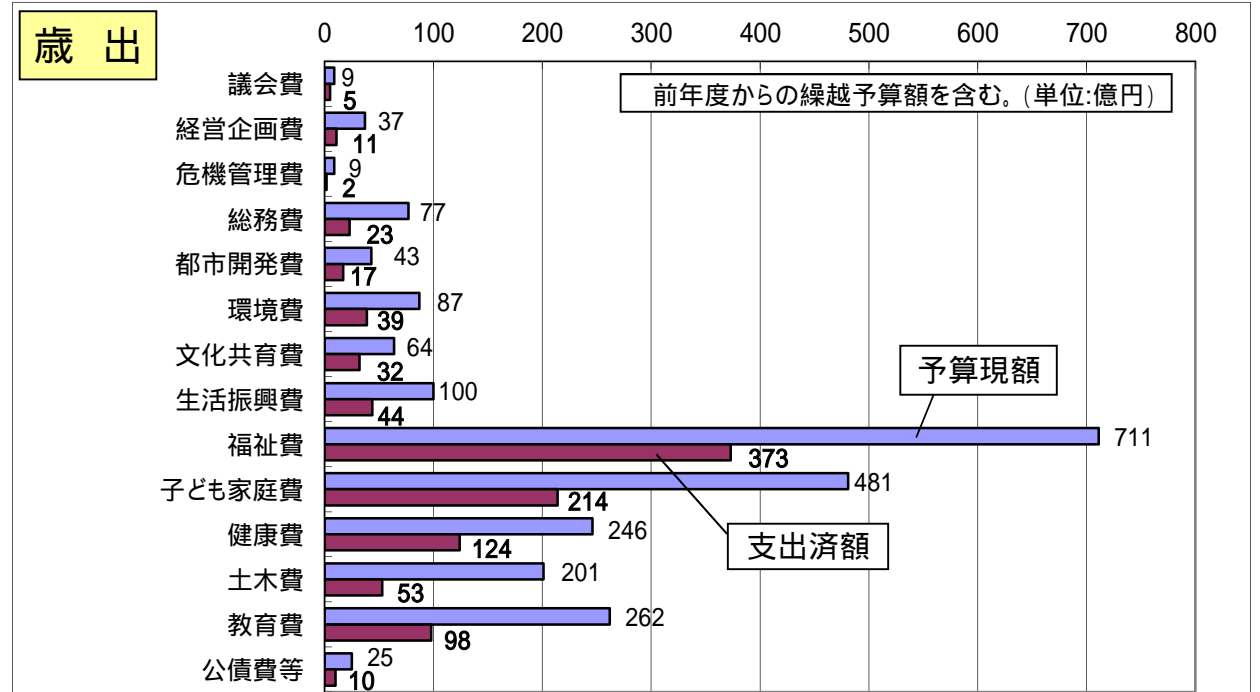
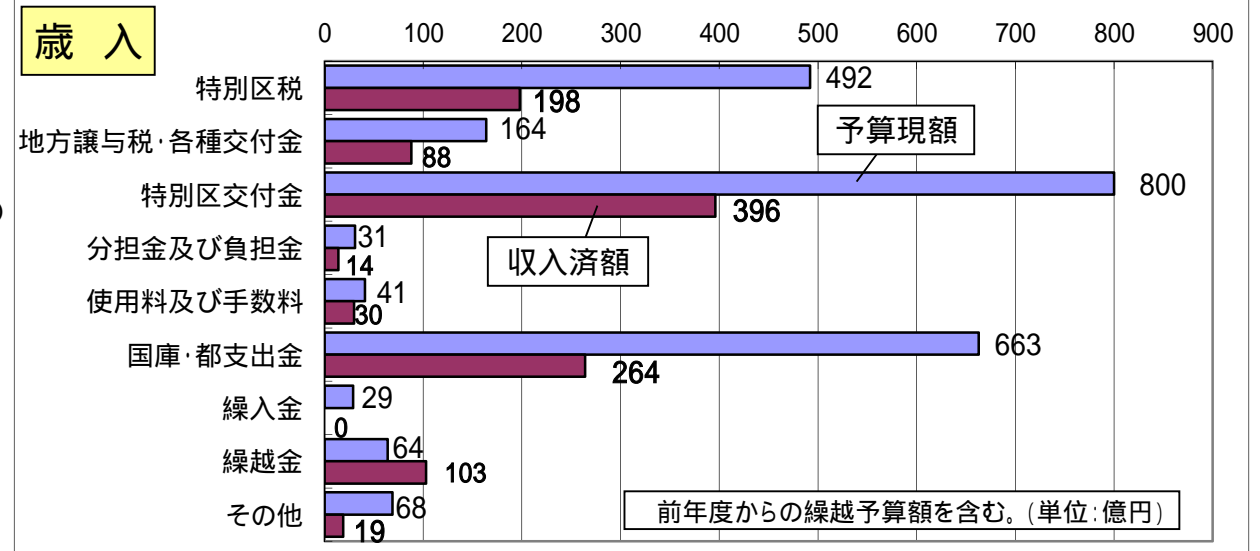
<歳出>

住基・個人番号制度推進事務費	5億589万3千円
(個人番号カード交付業務委託期間延長及び地方公共団体情報システム機構への交付金等)	
北小岩一丁目東部土地区画整理事業費	9,891万円
(擁壁設置、土砂運搬等工事経費)	
情報化推進事務費	5,432万4千円
(情報基盤のセキュリティ強化対策経費)	
住民基本台帳事務費	3,806万円
(個人番号カード交付業務の臨時職員賃金)	

補正後の一般会計予算の構成

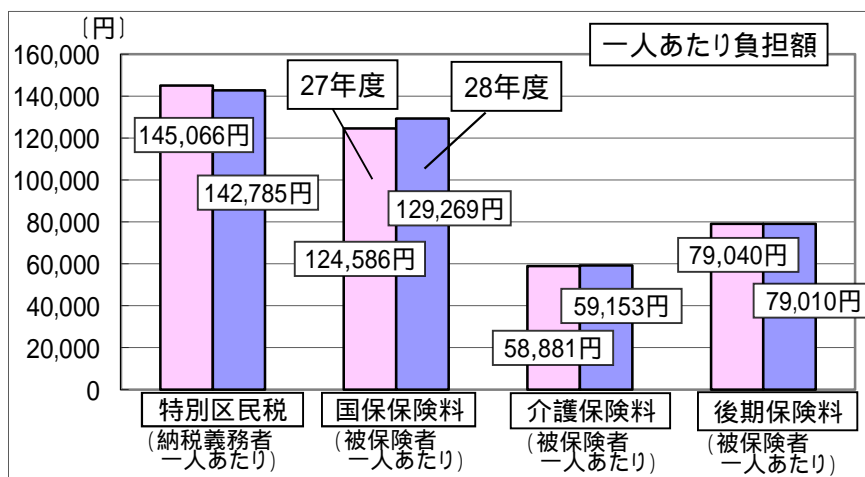


平成28年度予算の執行状況 一般会計(平成28年9月30日現在)

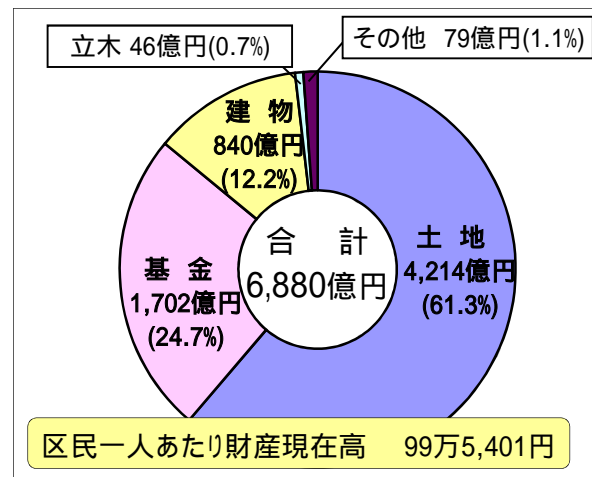


江戸川区の人口(住民基本台帳人口 外国人を含む) 691,174人(平成28年10月1日現在)

区民の負担概況 (平成28年9月30日現在)

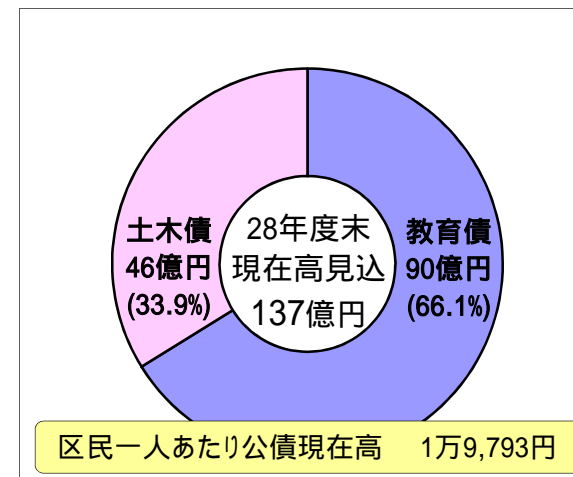


財産の現在高 (平成28年9月30日現在)



基金とは...
 積立基金と運用基金の2種類があります。左の基金は、この2つの合計です。
 積立基金は、家計でいうと貯金です。災害発生時や老朽化した施設の改築等への備えで、9月末現在高は1,502億円です。
 運用基金は、一定額の基金を土地取得のために運用するもので、200億円あります。

公債の現在高 (平成28年9月30日現在見込)

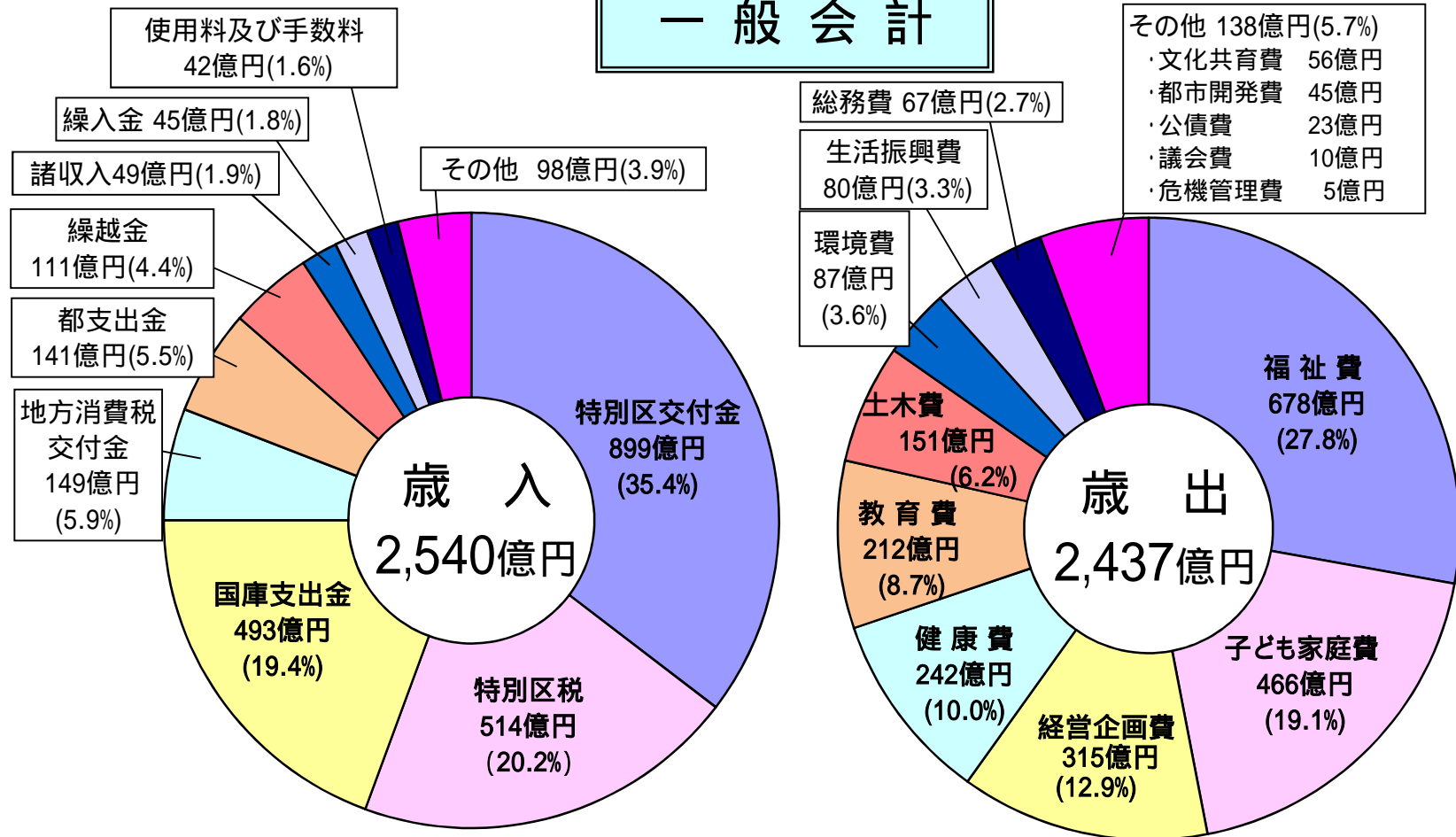


公債(区債)とは...
 家計でいうと住宅ローンなどの借金です。
 道路整備や学校の改築など、いくつかの世代にわたって利用することのできる施設について、将来の区民の方々にもその費用の一部を負担していただくため、公債(区債)を借入れ、負担の公平を図っています。

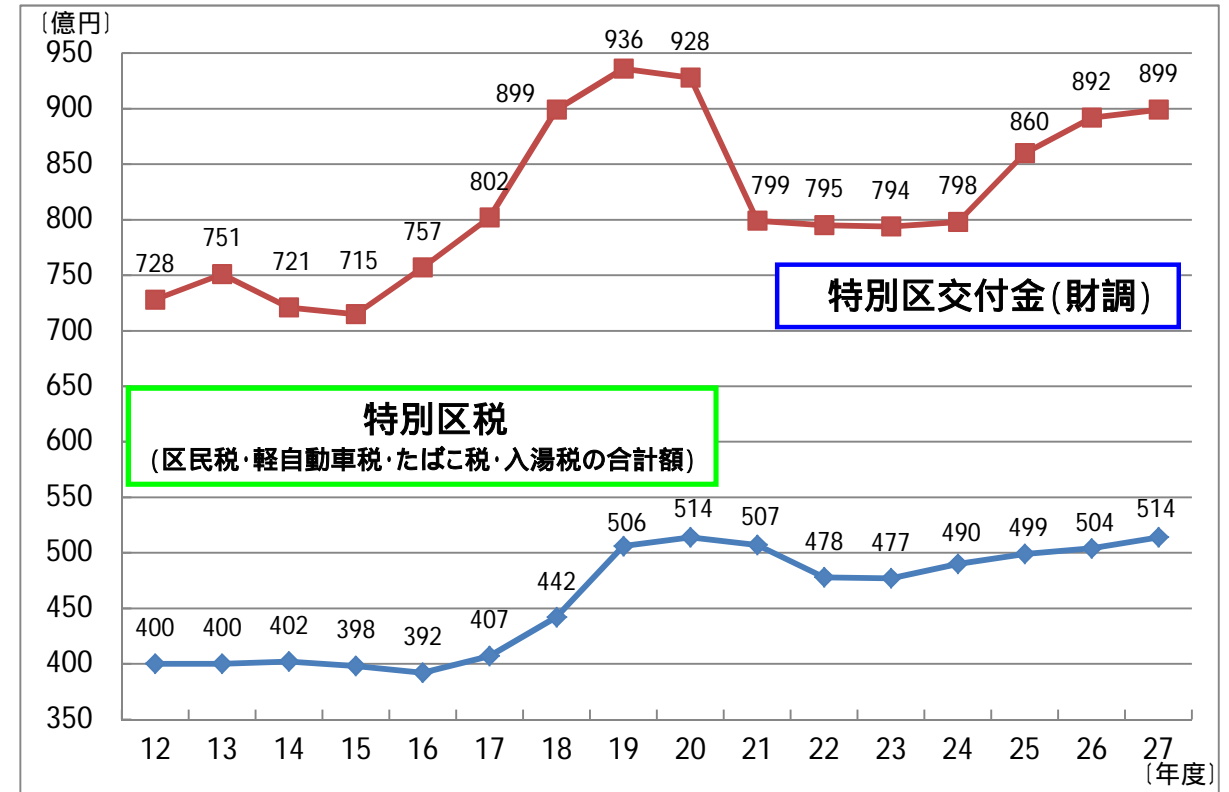
平成27年度 決算の概要

各計数は、原則として表示単位未満四捨五入のため、合計等に一致しないことがあります。

一般会計



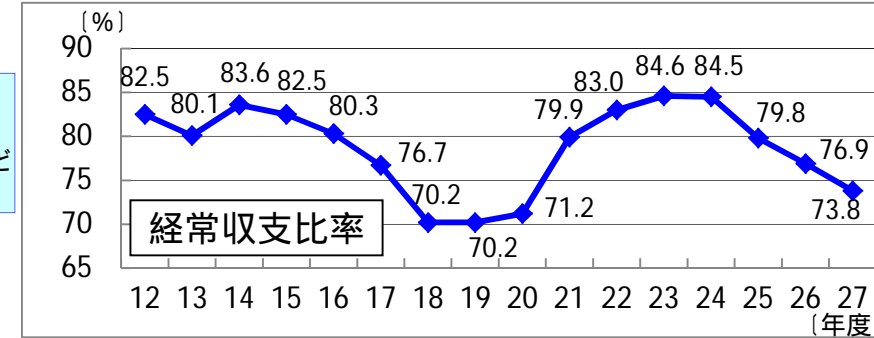
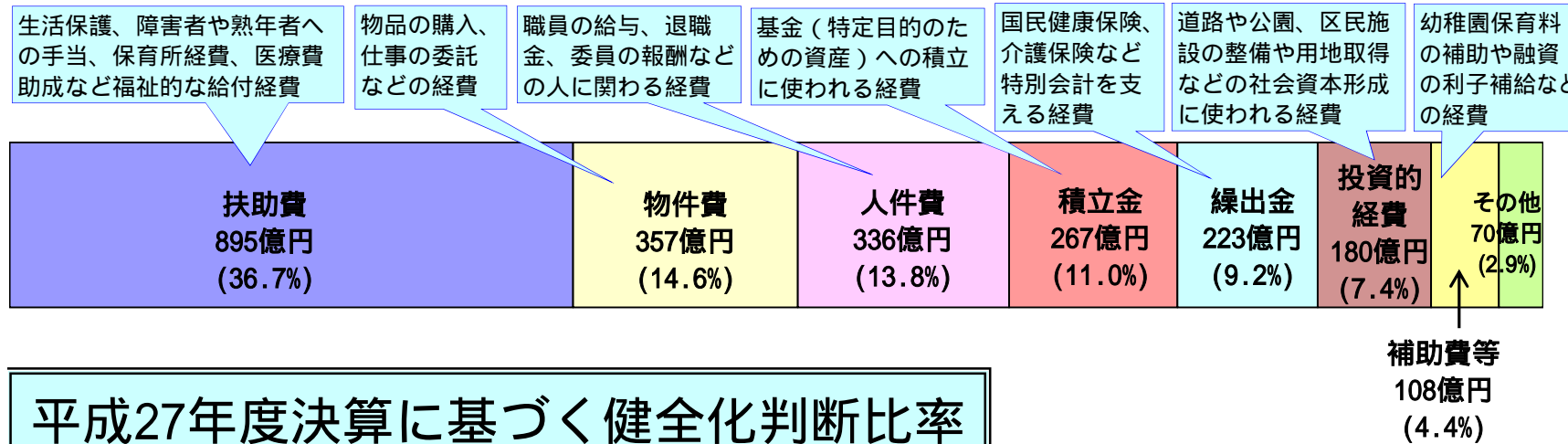
特別区交付金と特別区税の推移



特別区交付金と特別区税

平成20年度以降、景気低迷等により特別区交付金や特別区税は、横ばいの状態が続いていましたが、日本経済の景気回復の影響を受け、平成27年度も増収となりました。

歳出の性質別内訳



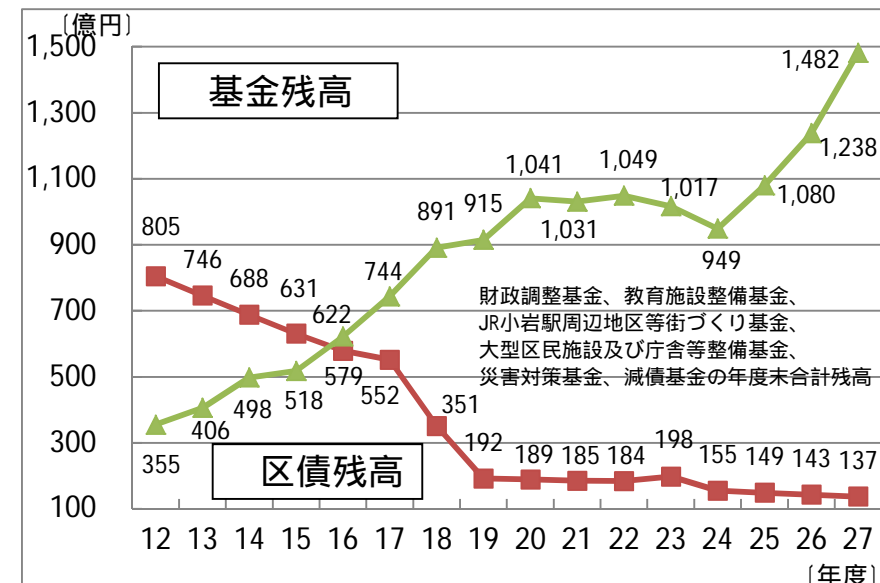
経常収支比率

財政構造の弾力性を計る指標で、適正水準は70%~80%です。27年度は、前年度から3.1ポイント改善し、3年連続で適正水準となりました。

平成27年度決算に基づく健全化判断比率

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
江戸川区	-	-	6.2%	-
早期健全化基準	11.25%	16.25%	25.0%	350.0%

表中の「-」はマイナス値を表し、27年度決算が黒字であったこと、将来負担すべき額よりも基金(貯金)の方が多く、将来負担比率の該当がなかったことを示しています。なお、実質公債費比率がマイナスの場合は「-」と表示しています。早期健全化基準とは、この数値を超えると財政が危険な状態であることを示す、国が定めた指標で、江戸川区の場合の指標を記載しています。



区債と基金の残高

区債残高は、24年度以降減少が続き、27年度末では137億円になりました。主要6基金残高は、「JR小岩駅周辺地区等街づくり基金」などへの積立により、前年度より244億円の増加となりました。